



Pick Up News 前号に続いて大学院特集いたします。世界の建築教育の標準は5年かそれ以上となっています。主にデザイン教育を主とする海外ですらそうですので、日本のように建築学全般（意匠、構造、設備等）を学ぶことを考えると、建築を学ぶ上で4年という時間がどれだけ短いかということがわかるでしょう。現在、建築学部建築学科では、学部から大学院までの連続的な学びを明確にするために、大学院建築学専攻（現在は工学研究科建築学専攻）設置を目指して準備をしています。それにより、修士（工学）ではなく、修士（建築学）の学位取得が可能となり、より明確に建築学を修めたことを示すことができると考えています。また建築士法改正により大学院在学中に一級建築士合格が可能となりました。設計事務所（企業）の半数が、新卒採用時に特に一級建築士合格者を「優遇したい」と回答している（日経アーキテクチャ2022-9-8）との結果もあります。進学の主目的は、研究や設計のさらなる充実にあります。このような時間として有効に活用することも可能です。+2年の時間を考えてみてはいかがでしょうか。

今号も大学院特集で
1. 大学院を志した理由
2. 進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

1. 一つ目は、学部生では学ぶことができないこと、経験できないことを体験したいという思いからです。二つ目は、学部生では卒業設計をすること決めていたので、大学院生では研究論文を作成し、自分に足りない文章力や論理的思考能力を鍛えたいという思いから志しました。

2. 大学3年生の冬頃

3. まだまだこれからなので、吸収できる場所は全て吸収して、自分のものにしていきたいです。大変に思う時もありますが、それを乗り越えてこそであるとおもうので、自分の殻を破るような勢いで努力を続けていきたいです。

4. 新しいことを学ぶのは面白いです。そうして得た知識はただ持っているだけではもったいないです。それを自分の技として、様々なプロジェクトや研究などに活かしてこそだと思います。学部の頃にできなかったことに挑戦したい人、新しい何かを身に付けてみたい人は、ぜひ大学院進学をお勧めします！（不破研 M1：及川龍人）

1. 卒業設計を通して、建築についてもっと学びたいと思ったため志望しました。また、長期休みを有効活用し、インターンや設計アルバイトをしたいと思ったのも理由の一つです。

2. 学部4年生の12月

3. 学部生の時とは違い少人数で授業を受けられるため、学生の発表や議論が多く行え、より密な授業が受けられることに魅力を感じています。より多くの知識を身につけられる良い時期だと思います。（福屋研 M1：木村華）

進路としての大学院の選択

1. 学部時代に講義や課題を必死に行い、良い成績を取れるように頑張ったため、このまま就職して専門かつ深い知見を身に付けたいのは勿体ないと感じたからです。

2. 3年生の11月には進学と就職で迷っていましたが、研究室の各種プロジェクトを通してお正月後には進学する旨を決定しました。

3. 大学院では各個人が発表する講義があり、発表する資料を準備するために必要な図や表の作成、必要な情報を多角的に学ぶ必要があるため、相手に対し分かりやすい発表を行うことの大変さが良く理解できました。

4. ただ与えられた課題を解決するだけでは不十分で、何をすべきか・何をすれば相手に伝わるかを熟考しながら行う必要があります。自身の資料作成能力や発表スキルをより向上させたい人は進学をお勧めします。また、進学を早く決めることで自身の卒論・卒計に十分な時間を充てることができるため、より良い卒業課題の製作が行なえます。（不破研 M1：黒羽巧真）

1. 大学で行った研究に興味を持ち、引き続き研究を行いたいと思ったから。大学院の講義も魅力的なものが多く、大学院に進もうと思った。

2. 大学院での研究の途中に進学を決めた。就活をしている途中であったので、並行してギリギリまで考えていた。

3. 個人の気になることをベースに講義を取得し、ゼミの専門分野から外れた学問に触れられることが大学よりも大きな魅力だと感じている。

4. 自分のやりたいことの延長線上に一体何かあるのか、もしかしたらギリギリで変わってしまうかもしれないということを念頭に入れた上で、大学院生活が選択肢にあるということをお忘れしないで大学生活を頑張ってください。（中村研 M1：足利駿）

1. 知見を広げ視野を広げるため

2. 大学入学時

3. 教わるというよりは先生方と意見を交える機会が多く、会話やディベートの中で新しく物事を発見する場となっている

4. 専門分野に強い工大だからこそ、教養を身につけるべき（福屋研 M1：吉岡昇一）

1. 建築設計に関わる仕事に就くため、大学院に進むことが可能性を広げる一つの手段だと考えたから。また、仕事をしてからではあまり時間が取れないが、大学院は自分のやりたいことや資格勉強などに時間を費やすことができる。

2. 大学3年生の冬あたり。

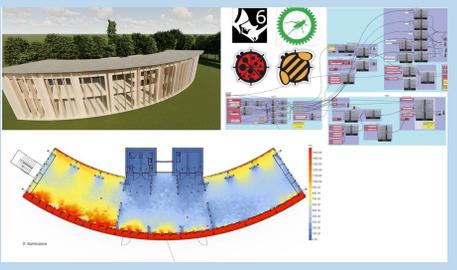
3. は座学だけでなく、現場見学や街歩きなど実際に体験しながら学べることが出来る。

4. 大学院だけでなく出来た体験が沢山あるので、大学院進学はオススメしたい。（不破研 M1：大沼翔）

Pick Up Lab. 大石研究室は3期目を迎えました。メンバーは学部生の11名に加えて大学院生が2名となり、研究テーマの充実を図っています。大学のWebサイト等では、建築空間を利用する人々の行動や心理的評価を扱う研究を主なテーマとして掲げていますが、最近はお牛舎を対象とした熱環境の調査や建築設計に活用するための光環境・熱環境のシミュレーションを中心に研究を行っています。特に、後者のシミュレーションは徳島県鳴門市の建築設計事務所と連携して実建物を対象に検討しており、M2の学生がその事務所にインターンに行くなど交流も行っています。研究室に興味のある学生はいつでも遊びに来てください。



冷房牛舎



光環境シミュレーションの例



4年 佐々木 海七斗くん
仙台城南高校 出身

Pick Up Student 私は仙台城南高校から3つの目標を掲げ本学科に入学しました。【1つ目は建築士になるためしっかり学業に取り組む。2つ目は教員免許を取得する。3つ目は部活動に取り組む。】この目標を達成するため日々精進しています。普通科を卒業し初めて学ぶこと、耳慣れない言葉や基礎的な知識不足で入学当初は非常に苦労しました。教職課程においても、教育自習をはじめ多くの課題や実習があり楽しみながらも大変でした。また、サッカー部に所属し週6日長町キャンパスにて活動しています。私は充実した大学生活を送るには常に目標を持ち多忙であることが重要だと感じました。様々なことに挑戦できる環境は本学科には備わっているため、今後も目標に向けて頑張りたいです。



2年 佐々木 芽依さん
宮城第一高校 出身

Pick Up Student 私は模範的な学生生活を送っている自信が無いのであまり偉そうなことは言えないのですが、大学生活を送っていく中で大切なと感じたことは、先輩との関わりです。就職活動を終えてどうだったか、社会人として働いてみて思ったこと、どんな毎日を送っているのかなどのお話を聞くたびに、新しい学びがあるし、貴重ななとすごく思います。学部が違う方でも得られることは沢山あるし、より視野が広がる気がします。その学びを生かさなければと自分のやる気にも繋がります。あとは、色んな方の伝記を読むことも大切なと感じます。物事の考え方やメンタル維持の方法など、誰の人生にも参考になる部分があると思うからです。ここまで読んで頂きありがとうございます。